

いこいの村 録部静枝

題字 梅の木寮（ユニット）

2013年（平成25年）3月20日発行

第370号

発行責任者 いこいの村聴覚言語障害センター

所長 柴田 浩志

編集 いこいの村編集委員会

〒629-1242

綾部市十倉名畑町久瀬谷2番地

TEL (0773) 46-0101

FAX (0773) 46-0610

<http://www.kyoto-chogen.or.jp/ikoi>

障害のある人もない人も わけへたてのない社会を めざして！！



きょうさん第36次国会請願署名・募金運動 全国キャンペーン展開中！

二〇一二年十月三十一日から
きょうさん第三六次国会請
願署名・募金運動が始まりま
した。

栗の木寮では二月の土曜
日・日曜日に、口上林地域の
お宅を一軒ずつ訪問して、署
名と募金のご協力をお願いし
ました。

「寒いのに」お友様「これ
からも頑張ってるね」と励まし
の声をいただきながら、仲間
（利用者）も寒さをいぬいて、
頑張ります。

障害者の暮らしを豊かなも
のに変えていくには、障害が
あっても、生きがいを持って
働ける社会を作っていくこと
は、誰もが安心して豊かな社会
へとつながっていきます。

皆様のご協力に心から感謝
申し上げます。



（いこいの村・栗の木寮

引原 直樹）

いいの村の梅のつぼみも
まだ固い二月二日。春の気配に思いを込めながら、ユニット 花の家の岩崎みつるさんと滝本志子さんが、綾部市内で食事と買い物を楽しめました。

いいの村の梅のつぼみもまだ固い二月二日。春の気配に思いを込めながら、ユニット 花の家の岩崎みつるさんと滝本志子さんが、綾部市内で食事と買い物を楽しめました。

いってもらったりします。その間、岩崎さんは、少し離れたソファに座り、あれにするか、これがいいかと迷う私たちを優しくほほえみながら、見守る様に待ってくださっています。ようやく決まった室内履きを購入した後は、食料品売り場へ。

お寿司 おいしいです



お寿司を食べた岩崎さん

岩崎さんは自分の買い物は後回しで、普段一緒に過ごしている仲間へ、お土産は何がいいかと楽しそうに選ばれています。買い物が一段落した後は、ゆっくりと店内を見て回ります。滝本さんは車いすを使って移動されますが、

岩崎さんは少し歩き疲れた様子でした。帰りの予定の時間までまだ少しあります。コーヒを飲み休んだ後に帰るところにして、喫茶店に入りました。窓の外に目をやるといこの村を出発した時とは違い、空はどんよりと曇っています。しかし、私たちは暖かな店内で甘くておいしいケーキをいただきながら、コーヒの香りに包まれて、ゆったりとした時間を過ごしました。

(梅の木寮 ユニット型 稲本洋子)

『カニ』を食べに
屋食の外出をしました

二月二日、利用者の強い要望でカニを食べに出かけました。

今年の梅の木寮新年会の食事に「カニが食べたい。メニューに加えてほしい」と希望があったのですが、残念な

がら、実現しませんでした。「それならば、お風呂飯に食に出したい」と相談をして、希望者を募り、舞鶴のお店に行くことになりました。



美味しい料理にお手上げ!!

「カニ料理はおいしかったー!」
「焼きカニ、ゆでカニ、天ぷら、お刺身、茶碗蒸し……全部おいしかったわ。もう食べられん」と満足した笑顔で話してくれた山田光夫さん。

松田ヒサコさんはいつと、隣の村上忠吉さんに「お酌をしてくれて、普段では見られない光景です。」
島崎綾子さんは、言う者

ですが、「カニは初めて。楽しみにしていた。おいしい」と笑顔で話されます。出された料理は全て食べられる様子に「こんなにくさん食べられる方なんや」と職員も驚きました。
外に出かけ、いつもとは違う雰囲気のある場所で食べるというも以上においしく感じられ、普段と違った利用者の様子も見ることができて、今回の外出の希望が実現して良かったと思いました。みなさん様々な希望を持っておられるように支援していきます。
(梅の木寮 従来型 田村直基)

はい、どうぞ。



田村直基

大災害から 生き残るために

「釜石の軌跡の教訓」

東日本大震災後、『釜石の軌跡』として語り継がれている子供たちの話を「存知でしようか。岩手県釜石市で防災について学んできた小中学生が、各々の「想像力」や「判断力」で、自らだけでなく近くの介護施設利用者をも助け、あの津波から逃げ切ったのです。子供たちの「想像力」や「判断力」は日頃の「備え」と「訓練」で培われたものです。

今年度、いこいの村でも総合訓練を四回実施。石釜パンのだからの里やグループホームとくらの家を出火場所に想定して、初めて地元消防団との合同訓練も行いました。各部署の訓練も実施し、利用者や設備に合わせて、毎回想定を変え、状況に合わせて動く「判断力」も高めるようにしています。

「福祉避難所としての役割」

いこいの村は、綾部市より市東部の福祉避難所として指定を受けています。福祉避難所とは、要援護者のために特別に配慮された避難所です。

今、いこいの村では、大規模災害を想定し、災害発生から一週間程度の行動計画策定に取り組んでいます。



「水や食料品の備蓄は入所者以外に在宅要援護者分も」独居や高齢世帯の安否確認のため名簿と地図の整備を「認知症の方や障害者が安心できる避難所に」「医療課題の多い方は適切な医療機関につなぐ」など、「想像力」を働かせ、どのような「備え」が必要か論議を重ねています。

「非常時に生きる連携を」

要介護度	人数
要介護1	77
要介護2	95
要介護3	85
要介護4	57
要介護5	51

(2011年3月現在)

右の表は綾部市東部に在宅で生活されている要介護高齢者の介護度です。これらの方々すべてをいこいの村だけで受け止められるわけではありません。今以上の食料や医療品の備蓄が必要です。日頃利用されている介護・障害福祉・医療機関とも連携し、避難時にも適切な支援が提供できるよう、日常からの連携が欠かせません。

皆さんも、大災害の時に、どうし、誰とどのように避難するのか、家族や隣近所、支援者の方々と相談し、確認する機会を作りましょう。

(いこいの村防災・施設管理委員

吉田正和)



いこいの村
聴覚言語障害センター
所長 柴田 浩志

新たな施設が上棟
弥生三月、新しい息吹を感じた季節となりました。

いこいの村では、昨年末に着工したティサービスセンターが三月一日に上棟し、立派な建物が姿を現わしました。工事現場では、冷たい雨や雪が降る中、作業員の皆さんが手早く柱を組み立てています。新しいティサービスセンターには、太い松の木の梁が何本も使われています。

□上林地域の皆様や、ティサービスをご利用いただく方々からは、「立派な建物や」「みるみる建って、完成が楽しみや」といった期待の声を聞かせていただき、これまで以上に地域に役立つ施設となるよう気持ちを新たにしています。

元気で生活し続けたい
今年度の高齢福祉部事業の利用状況を見ますと、ティ

サービスセンターは、利用者が開所以来最高の六〇〇〇人を上回る見込みです。また、配食サービスも土曜日の配食を開始したことで、昨年よりも大幅に利用数が伸びました。在宅介護支援センターにおいても「元気だけれど、今うちから、関わりをもって元気で生活し続けたい」という、介護予防の対象となる方々からの依頼が増加しています。

豊かな暮らしの実現を
ティサービスの移転工事と並行して、いこいの村では、三月末から開所二〇年を経過した梅の木療養来型の改修に着手いたします。いこいの村が京都府内の高齢聴覚障害者や、綾部市東部地域の高齢者の豊かな暮らしを支える施設となるよう、安全第一に事業を進めてまいります。



